

今朝のホットな話題

2026-10-14

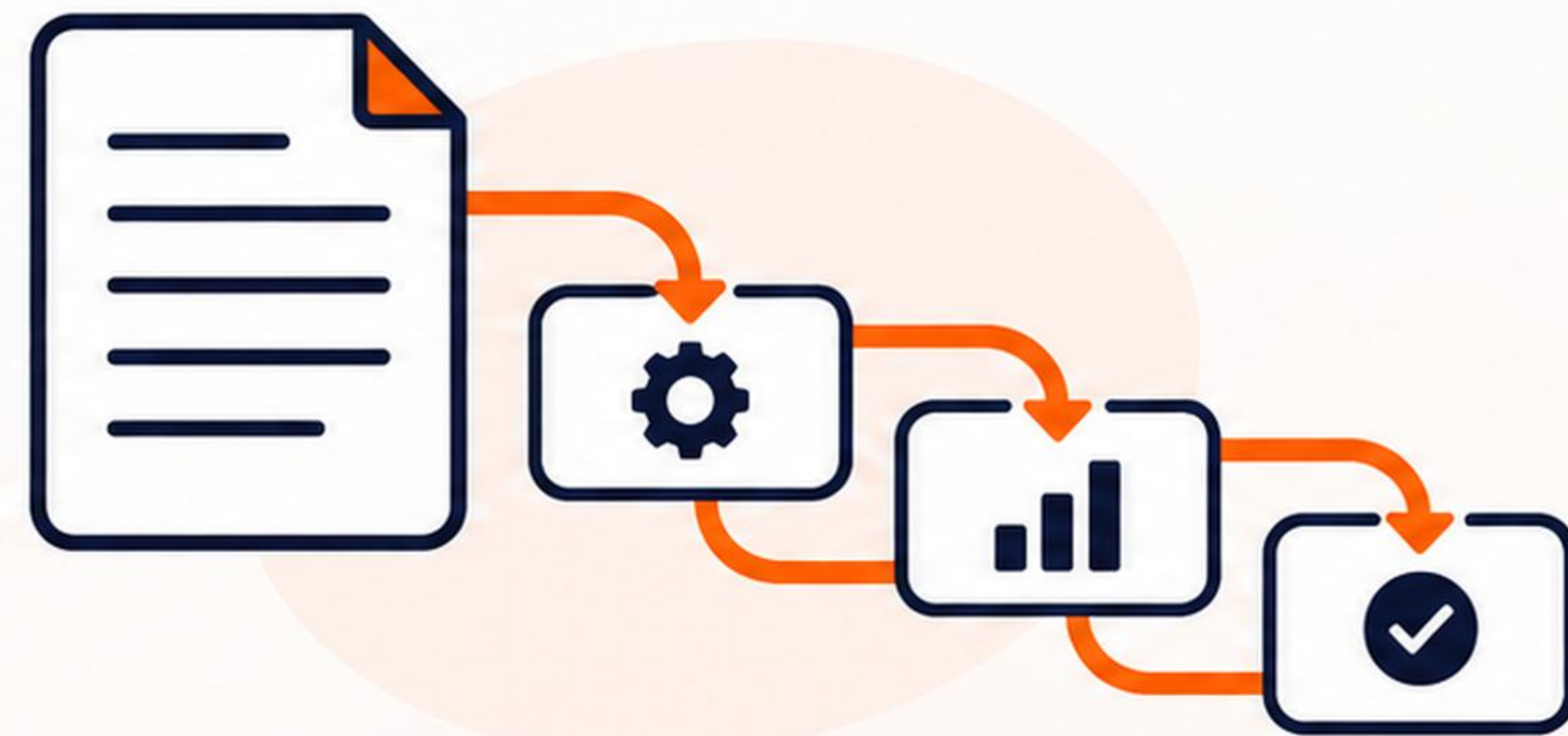
1. Gemini 4 Argon、一般提供と導入価格を案内
2. ArgonをAI GatewayとCopilotから利用
3. Agents SDK、ブラウザの状態を次のターンへ

注目
3件

Gemini 4 Argon、一般提供と導入価格を案内

GoogleはGemini 4 Argonを一般提供し、有料API、Google AI Ultra向けAntigravity、Pro・Ultra向けGeminiアプリとSearchのAI Modeからの利用を案内しました。

- 有料APIと購読サービスで一般提供
- APIの入出力は合計100万トークンまで
- 導入価格は入力2ドル・出力10ドル／100万トークン。
11月30日の導入期間終了後は4ドル・20ドル

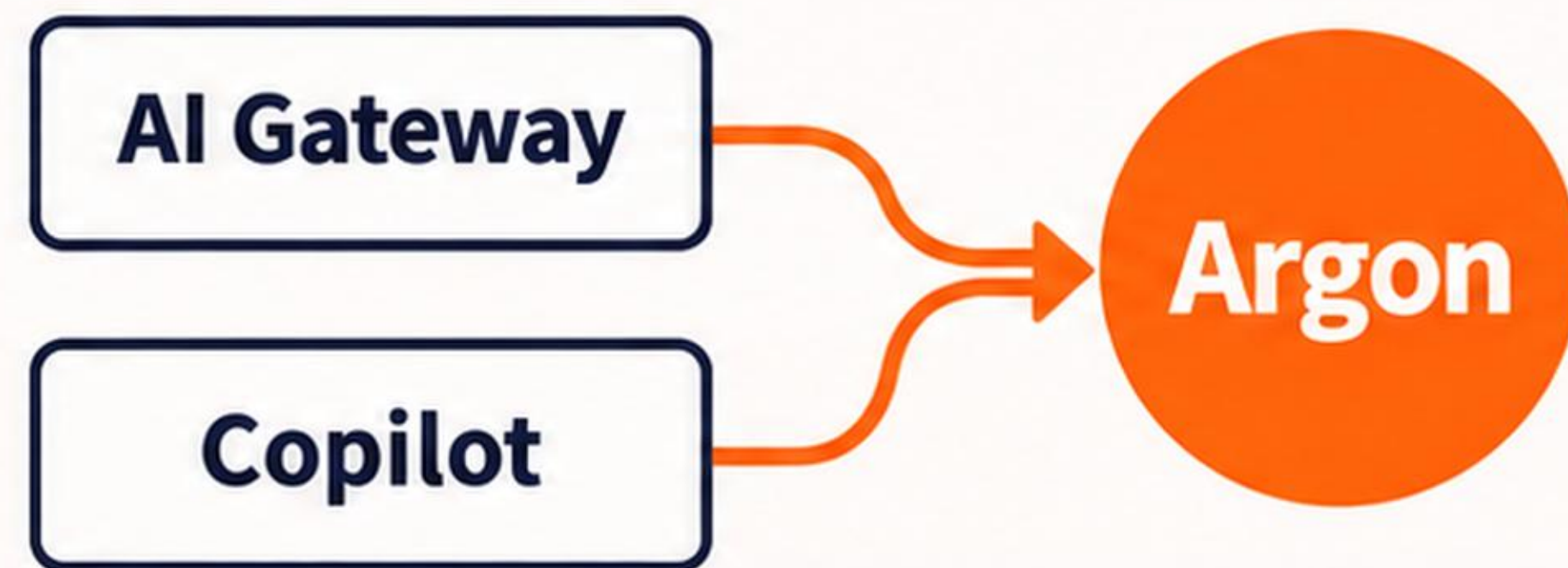


長い資料や複数段階の仕事に使う候補が増えます。

ArgonをAI GatewayとCopilotから利用

Vercel AI GatewayがGemini 4 Argonに対応し、モデルID google/gemini-4-argonでテキスト・画像・PDF・動画の入力とツール呼び出しを利用できます。

- AI GatewayのIDはgoogle/gemini-4-argon
- 思考量はlow・medium・highの3段階
- CopilotはPro+・Max・Business・Enterpriseが対象



既存のAI開発環境から試す経路が増えます。

Agents SDK、ブラウザの状態を次のターンへ

Cloudflare Agents SDKに、ブラウザを次のターンでも使えるbrowserToolが加わりました。

- Agents SDK v0.28.0以降で利用
- タブ・Cookie・ログインをターン間で保持
- 既定のアイドル期限は10分。失効すると元の状態を失う



ログインを伴う巡回や複数ページの調査を続けやすくなります。

Workersの障害をMCPイベントで受け取る

Cloudflare APIのMCPサーバーが、Workers Issuesの新規・再発障害を署名付きイベントでクライアントのwebhookへ届けるようになりました。

- 新規・再発のWorkers Issueを通知
- `events/list`と`events/subscribe`で購読
- 署名付きwebhookでイベントを配信



監視対象を何度も問い合わせる運用を減らし、障害発生をきっかけにAIの調査を始められます。

MAI-Image-2.6、生成と編集を AI Gatewayで

Vercel AI GatewayがMicrosoftのMAI-Image-2.6とMAI-Image-2.6-Flashに対応しました。

- 画像の生成と既存画像の編集に対応
- 参照画像は最大5枚
- 出力は最大1536×1536

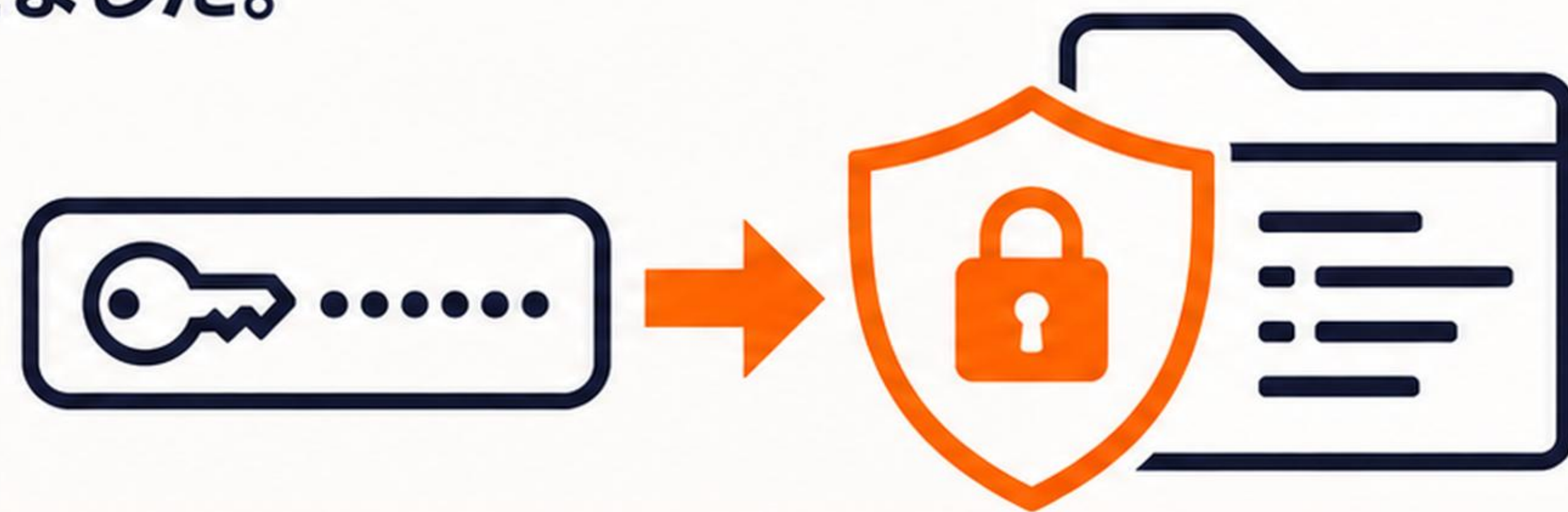


試作と仕上げでモデルを使い分け、画像生成も既存のGateway経由で扱えます。

GitHub、Anthropicキーのpushを既定で保護

GitHubのシークレッツスキャンがAnthropicのservice・user APIキーを新たに検出し、既定のpush保護対象に加えました。

- Anthropicのservice・user APIキーを検出
- 両キーを既定のpush保護対象に追加
- シークレッツスキャン有効リポジトリが対象

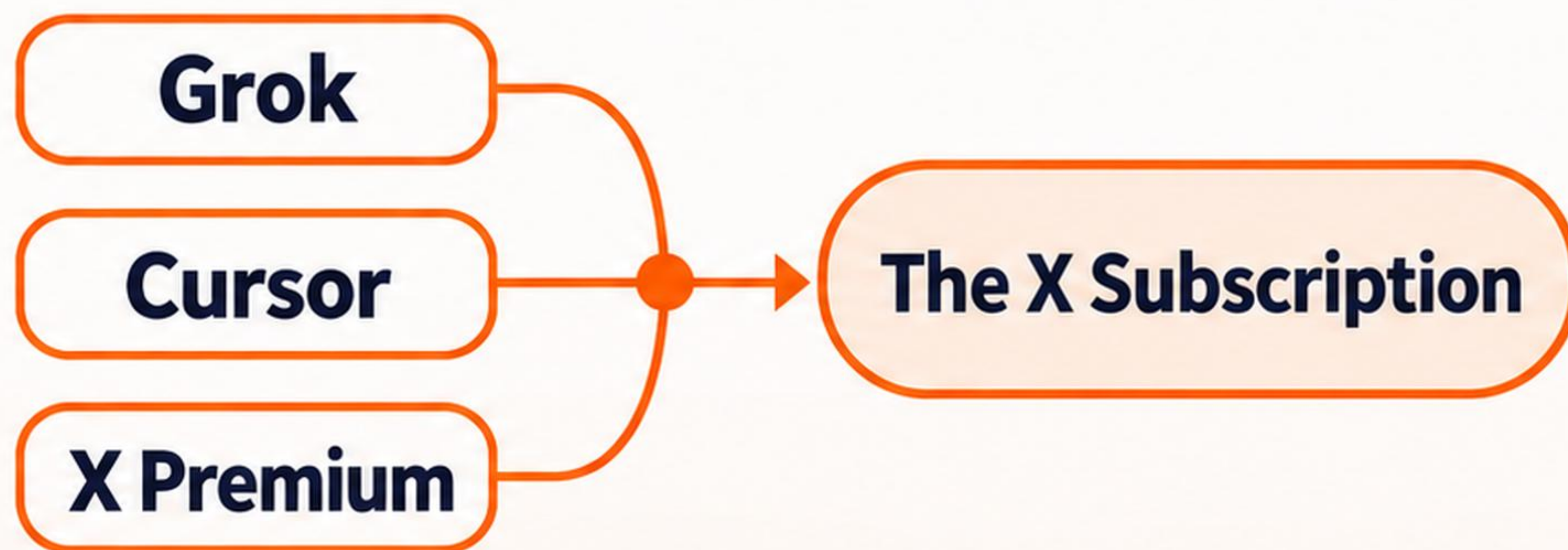


AI開発で扱うキーの誤送信を止める仕組みが増えます。

Grok・Cursor・Xの購読プランを統合

SpaceX Super Intelligenceは、Grok・Cursor・X PremiumをまとめたThe X Subscriptionを発表しました。

- FreeからUltraまで5つのプラン
- Grok・Cursor・X Premiumをまとめて利用
- 既存契約を維持する選択も可能



複数のAIサービスを契約している人は、契約をまとめる選択肢が増えます。

本日のトピック一覧

1. Gemini 4 Argon、一般提供と導入価格を案内
2. ArgonをAI GatewayとCopilotから利用
3. Agents SDK、ブラウザの状態を次のターンへ
4. Workersの障害をMCPイベントで受け取る
5. MAI-Image-2.6、生成と編集をAI Gatewayで
6. GitHub、Anthropicキーのpushを既定で保護
7. Grok・Cursor・Xの購読プランを統合